



V 海外だより

EC 域内貿易統計 — 新しいシステム、古い問題

ニッセイ基礎研究所ロンドン事務所 ジョン・ドウ

要 約

英国の支出種目別 GDP の輸出入データは変動が激しく、1993 年初め以降四半期ごとに大幅な改訂がなされている。これは、英国で目下進行中の景気回復の状態や勢いの分析を著しく妨げている。

本稿では、英国貿易収支統計内のこうした弱点の原因について検討し、1993 年 1 月 1 日に導入された、EC 加盟国間の貿易統計を編纂する新しいシステム (INTRASTAT) に原因の大半があるとの結論を導く。

INTRASTAT について手短かに説明をし、最近の貿易収支統計の質の低下が一時的なものか、あるいは、重大な欠陥が残存しているのかどうか検討する。本稿は歴史的に質の低い英国の貿易収支統計という観点から検討を行なう。

INTRASTAT にからむ問題はすべての EC 加盟国に共通したものではあるが、入手可能な情報が不足しているため、本稿は英国に関する事柄に限定されている。

背 景

貿易収支統計はかねてより英国の統計学者やエコノミストの悩みの種となってきた。1980 年代前半には、英国は北海の石油と天然ガスのお蔭で健全な経常収支黒字に恵まれていたため、あらゆる懸念は脇へ置かれていた。しかし 1987 年までにこの黒字は赤字へと転じ、赤字は 80 年代の残りの期間に大幅に拡大することとなった。1989 年にはすでに経常収支赤字は GDP の 5% に達していた。

その一方、調整項目 (大まかに言えば資本収支と経常収支の差額。これは理論上はゼロとなるべきだが、実際には両収支勘定における誤りと遺漏の総額を表す) は大きく膨らんだ。1989 年 3 月の時点には、1986~1988 年の調整項目総額は 413 億ポンドだった。これは 1988 年の経常収支赤字のほぼ 3 倍に相当する。

国際収支統計の信頼性を損ないかねないこうした事態を受けて、収支勘定統計の質を改善すべく、いくつかの特別調査委員会が設けられた。こうした構想は、ピックフォード報告 (1988 年) や、中央統計局 (CSO) の組織再編 (1989 年)、および、すべての政府統計をカバーするより広範な付託範囲を有する第 1 期および第 2 期大蔵大臣経済統計構想 (1990 年および 1991 年) と並んで、国

際収支の基礎となる統計システムにいくつかの抜本的な変更をもたらした。

手短かに言って、これらの変更は、データ収集活動の、CSO への中央集中強化、報告の四半期化の促進、既存の調査のより包括的なカバレッジ、および情報統合の強化に焦点を絞ったものだった。その結果、1992年8月には、1986～1988年の調整項目総額は413億ポンドから101億ポンドへと減少していた。

經常収支は1990年代初めの景気後退期全体を通じて赤字のままだったため、引き続き国際収支統計の質に焦点が置かれた。したがって、1993年に貿易収支統計の様子がどうもおかしくなってきたことは、いわば予想外の事態だった。貿易収支統計の様子がおかしいことを示す第一かつ最大の証拠は、国民勘定のデータに現れていた。

国民勘定

下の表は、1993年の第1～第3四半期についての、GDP（時価）の四半期ごとの変動率、ならびに、この変動に内需と純輸出がどの程度貢献していたかを示したものである。1行目には当初に発表されたデータが記されており、以下の行にはその後の改訂データが示されている。

この表から明らかなように、GDPの数字はかなり一定しているにもかかわらず、内需と純輸出の貢献度の開きは四半期ごとに変化している。もっと重大なことに、最初の発表についてのその後の改訂は、両者の貢献度を著しく変化させる場合がある。これはとりわけ第2四半期に顕著であり、

ここでは、当初の発表はGDPの伸びが全面的に純輸出によってもたらされていることを示唆していたにもかかわらず、その後の改訂では逆に、内需によるものとされている。

こうしたデータの質の低さは、下の表が示すように、輸出と輸入に等しく影響を及ぼしているようである。〔以後本稿で標準的なものとなるこの種の表では、各列内の左側の数字は季節調整済みの年率に換算された輸出または輸入の四半期変動率、右側の数字は年間変動率を表している。〕

1993年国民勘定 輸出	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
当初の発表	+14	+6	-1½	-½	+12	+5		
1次改訂	-1	+2	-5½	+1½				
2次改訂	+11	+5						

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

1993年国民勘定 輸入	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
当初の発表	+8	+3½	-9½	-5	+5	+2		
1次改訂	-12	+0	-3½	+½				
2次改訂	+2½	+4						

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

むしろ、四半期国民勘定データの改訂は予想されてしかるべきである。補遺1には、1991年、1992年両年に関する上記と同様の表が収められている。どちらの年の表にも、いくつかの目立った改訂が見受けられるとはいえ（一番最近のものは、おそらく1985年から1990年の国民勘定のベース変更によるものだろう）、概して、1993年の改訂に匹敵する規模のものは見当たらない。このことは、1993年に特有の、特殊な要因が1993年のデータに悪影響を及ぼしていたことを示唆している。

	1993年第1四半期			1993年第2四半期			1993年第3四半期		
	GDP (国内総生産)	内需	純輸出	GDP (国内総生産)	内需	純輸出	GDP (国内総生産)	内需	純輸出
当初の発表	+0.5	+0.1	+0.4	+0.5	-0.1	+0.5	+0.7	+0.3	+0.4
1次改訂	+0.5	-0.2	+0.8	+0.7	+0.8	-0.1			
2次改訂	+0.5	+0.1	+0.5						

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

貿易収支

輸出と輸入に関する国民勘定データには、モノ(財)貿易とサービス貿易の両方が含まれる。貿易収支はモノのみに焦点を絞っている。

1993年総輸出 (価額)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
当初の発表	+31½ +13½	-6½ +9	+17½ +16½	
1次改訂	+30½ +13½	-7 +10½		
2次改訂	+40 +15½			

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

1993年総輸入 (価額)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
当初の発表	+29 +17½	-8 +9	+7 +12	
1次改訂	+14½ +14	-6½ +10		
2次改訂	+16 +14½			

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

価額で見ると、1993年の輸出と輸入に加えられた改訂は比較的小幅のものとなっている。数量で見ると、貿易収支は(もちろん同じく数量で見ると)国民勘定と対応しているようである。したがって、サービス貿易は、1993年の統計の質の低さの原因ではなさそうである。

1993年総輸出 (数量)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
当初の発表	+5½ +6½	+1½ 0	+10 +5	
1次改訂	-8½ +1½	-4 +2		
2次改訂	+6 +5½			

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

1993年総輸入 (数量)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
当初の発表	+8½ +5	-12½ -5	+5 +1½	
1次改訂	-15 +1½	-7 +1		
2次改訂	+1½ +6½			

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

1993年のEC域外諸国との貿易統計には、価額の面でも数量の面でも国民勘定で見られるような改訂は何も見受けられない。

1993年EC域外 輸出(価額)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
当初の発表	+51 +18½	+15½ +21½	+11½ +26	
1次改訂	+61 +21	+16½ +21½		
2次改訂	+61 +21			

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

1993年EC域外 輸入(価額)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
当初の発表	+45 +23½	-5½ +19½	+14½ +24½	
1次改訂	+44½ +23½	-8 +18½		
2次改訂	+44½ +23			

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

1993年EC域外 輸出(数量)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
当初の発表	- -	+26½ +12	-1½ +12	
1次改訂	+14 +9	+26½		
2次改訂	+16			

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

1993年EC域外 輸入(数量)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
当初の発表	- -	-6½ +9	+15½ +12½	
1次改訂	+21½ +14½	-6		
2次改訂	+19½			

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

しかしながら、EC域内諸国との貿易に関する数字は、とりわけ(全面的ではないにせよ)数量の面で、大幅な改訂が加えられているようである。1993年の第1四半期に関する数量データの発表の遅れによって、実態はいくぶんぼやけている。この遅れのため、発表された最初の数字はすでに改訂が加えられたものとなっていた。改訂されていない数字が発表されていたとすれば、その数字は、輸出、輸入いずれに関しても、間違いなく、はるかに大きな四半期成長率を示していたはずである。

1993年EC域内 輸出(価額)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
当初の発表	+17½ +9½	-23 -½	+23½	
1次改訂	+11½ +8	-23½		
2次改訂	+25			

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

1993年EC域内 輸入(価額)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
当初の発表	+15½ +12	-14 -½	-½	
1次改訂	-7 +6½	-5		
2次改訂	-6			

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

1993年EC域内 輸出(数量)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
当初の発表	- -	-15½ -9	+22 -½	
1次改訂	-23 -3½	-24½		
2次改訂	-½			

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

1993年EC域内 輸入(数量)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
当初の発表	- -	-18 -13	-6 -8½	
1次改訂	-29 -5½	-7½		
2次改訂	-13½			

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

〔第1四半期の当初データがない〕とはいえ、また入手可能な情報が不足しているにもかかわらず、1993年の国民勘定純輸出データの質の低さは、したがって、おおかたEC域内諸国とのモノ貿易統計に帰することができそうである。

補遺2には、EC域外貿易とEC域内貿易の両方に関する1993年中の月間貿易統計の改訂が示されている。とくに、四半期ごとのEC域内貿易収支尻の推定値の変動ぶりに注目願いたい。EC域外諸国との貿易に関するデータの月間改訂は概して大きくない。

INTRASTAT

1993年のEC域内モノ貿易に関する統計の質の低下は容易に説明がつく。1993年の年頭より、まったく新しいEC域内貿易統計データ収集システムが導入された。税関申告書に基づく旧来のシステムは欧州単一市場プログラム(“EC92”)の完了後はもはや存続できなくなるため、この変更はECのすべての加盟国に対して強制された。EC域内国境での税関申告書は、域内貿易を自由

化する運動の一環として廃止されたのである。INTRASTATと称する新しいEC規模のシステムは、付加価値税(VAT)の執行/徴収目的の既存の書類に基づいている。EC域内のモノ貿易だけが、この新しいシステムの影響を受けた。EC域外のモノ貿易では引き続き税関申告書が作成され、これは今でも、関連貿易統計の編纂目的に使用されている。サービス貿易に関するデータは引き続き、種々の調査、質問表、申告書に基づいている。

補遺3には、INTRASTATシステムと、税関申告書に基づく旧来のシステムについてのより詳しい説明が記されている。

1つの貿易に関して企業が2度報告しなければならないのを避けるため、およびその他の理由により、旧システムと新システムは重複しないものとされた。この決定の結果として、新システム導入当初の問題が数多く予想された。そのため、1993年中頃まで、EC域内貿易データはまったく発表されなかった。

しかしながら、数字が発表され始めてからも、こうした当初の問題はまだ解決されていなかったらしく、そうした問題は月間貿易データを相変わらず歪ませていたようである。導入当初の問題には、以下のものが含まれていた。

一回答率の低さ。データは貿易業者の申告書に全面的に依存している。そうした申告書は提出が義務づけられているものの、大幅な提出の遅れが見られている。1993年6月に第1四半期のデータが発表されたとき、CSOの推定では、EC域内への輸出の86%、EC域内からの輸入の78%しか報告されていなかった。現在ですら、回答率は当初発表の時点には90%程度にすぎない。CSOは、最終的に報告がなされるまで、この未報告の貿易の水準を推定しなければならない。

一季節調整。EC 域内データはこれまで季節調整の歴史のない全く新しいものである。EC 域内貿易は、世界貿易とは異なる季節的パターンを有している。適用すべき適切な季節的要因調整は、少なくとも1年が経過してからでない、確実なことは何もわからない。それまでは、季節調整はCSOの技能と判断力任せとなる。

一価額/数量計算。大規模貿易業者によって月間INTRASTATで報告される数量データと、税関申告書システムのもとで報告される数量データの間には連続性がなかった。そのため、価額のローデータから数量データを引き出すことはきわめて困難となっている。したがって、(国民勘定で使用される)数量データは、価額データよりいっそう質の劣るものとなっている。

最後の2つの問題は、EC域外貿易のデータにもある程度影響を及ぼすことになる。とはいえ、これらの問題はどれも、深刻ではあるにせよ、時間が経つにつれて減少するはずである。この状況を十分認識していたCSOがこれらの問題によって引き起こされる将来の改訂を最小限に抑えるよう奮闘努力したため、1993年11月に発表された8月の世界貿易データは2日遅れて発表された。その努力がどの程度成功したかは今のところまだ定かではない。

1993年1月に関するデータは、以下のような2つの特殊な要因によっても歪められていた。

一旧来の税関申告書システムのもとでは、月間輸出データは、月半ばから月半ばまでの期間に関するものだった。たとえば12月の数字は、11月中旬から12月中旬に出荷された輸出に関するものだった。INTRASTATのもとでは、月間データは、その暦月内に実際に出荷された輸出に関するものである。このことを考慮に入れ

て調整がなされた。

一税関申告書システムのもとではEC域内に帰属するとされていた輸入の中には、現在はINTRASTATによって適切に、より遠隔の、EC域外の国に帰属するとされているものがあるようである。この要因は調整不可能であり、これは1993年の1月または第1四半期におけるEC域内輸入データを、それ以前の期間に比べて人為的に押し下げる傾向をもつことになる。逆に、この期間のEC域外輸入データは押し上げられることになった。

INTRASTATデータは税関申告書に基づくデータより今後とも質の劣ったものとなる、と想像される理由がさらにある。すなわち、

一カバレッジが完全でない。貿易全体の98%が報告されるとしても、トータルの数字は依然として推定値のみである。VATの適用下限以下の小規模貿易業者からのデータはまったくない。数量データは、大規模貿易業者のみから引き出されるにすぎない。税関申告書のもとでは、貿易全体の100%が報告されていた。

一発表の遅れ。現在のところ、EC域内データは、同月のEC域外データより7週間あとに発表されている。いずれこのタイムラグは縮まるものと期待されるが、これが1か月以下となる公算はなさそうである。この遅れは、数字の精度を低下させることはないが(実際には精度を高める)、数字をあまり役立たないものにしてしまう。

景気回復の勢い、あるいは景気回復の存在そのものが疑わしくなっていることにより、経済状態に関して注目が集まっているさなか、これらの問題すべてが貿易収支統計の、したがって国民勘定

統計の、著しい質の低下をもたらしたのは明らかである。

理想的には最低1年間、INTRASTAT システムと先行システムが併用されていたなら、統計の質の低下は明らかに今よりはるかに些細なものとなっていたはずである。

とはいえ、問題はまだ残っている。すなわち、改訂された1993年の貿易データは、現在では信頼のおける正確なものとなっているのだろうか？もっと端的に言えば、それは、今後の経済分析の有用な基礎となりうる、現在までの国際収支状況の真の記録なのだろうか。

現 状

1993年11月以降、1993年の上半期のどの月の貿易データも改訂されていない。しかし、下半期の月については、依然、大幅な改訂が加えられようである。たとえば補遺2の最初の表は、1993年第3四半期におけるEC加盟国との貿易収支が、最近になって、小幅の黒字からかなりの赤字へと改訂されたことを示している。したがって、下半期の月のデータがまもなく“落ち着く”のは間違いないとしても、当初に発表された貿易データを信用しきってしまうのはまだ時期尚早と思われる。これは、四半期ごとの国民勘定に組み入れられた貿易データについても言えることである。しかしながら、前のセクションで述べたようにこうした状況は時間が経てば改善するものであり、当初の発表の信頼性はいずれINTRASTAT導入前とほとんど同程度になることが十分期待できる。

とはいえ、度重なる改訂とそれにからむデータの信頼性欠如の問題は、現時点における最大の懸念をもたらすものではない。いっそう憂慮すべきは、一部の貿易データがまったく誤りであるおそれがあること、すなわち、貿易パターンを真に反映していないおそれがあることである。

この場合、EC域外貿易とEC域内貿易の輸出

入実績の相違に関心が注がれることになる。

下の表は、1993年のEC域内および域外の輸出入の価額および数量の最新の四半期変動（季節調整済みの年率）を示したものである。第3四半期の数字は未だ改訂されていない。

1993年 国民勘定	価 格				数 量			
	輸 出		輸 入		輸 出		輸 入	
	EC域内	EC域外	EC域内	EC域外	EC域内	EC域外	EC域内	EC域外
第1四半期	+25	+61	-6	+44½	- ½	+16	-13½	+19½
第2四半期	-23½	+16½	-5	-8	-24½	+26½	- 7½	- 6
第3四半期	+23½	+11½	- ½	+14½	+22	-1½	- 6	+15½
第4四半期								

〔資料：CSO、筆者自身の計算〕

表から直ちに明らかのように、EC域内貿易の数字とEC域外貿易の数字という、2組の数字はほとんど一致しない。

このこと自体は、警戒すべきものではない。事実、輸出の数字に大きな開きがあることは予想されてしかるべきである。1993年には、英国以外のEC諸国はかなり深刻な景気後退を依然抜け出せずにおり、英国の輸出に対する需要もそれに依りて伸び悩んだ。しかしEC域外では景気は概して、より好調であり、英国のEC域外輸出がEC域内の場合に比べて伸びた公算は大きい。

しかし、輸入実績の大きな開きを説明するのは、より困難である。とりわけ、EC域内からの輸入は、国内の景気状況によって押し下げられる必要はけっしてなかった。それどころか、内需が停滞しているのであるから、欧州各国は、モノを買ってくれる見込みのあるもっとも近くの国である英国への輸出を増やそうとしたと予想するのが妥当である。

したがって、表の数字は明らかに何らかの説明を必要とする。もっとも明白な開きが見られるのは第1四半期の輸入である。しかし、この、EC域外の輸入に比べて一見不条理なほど弱々しいEC域内の輸入は説明がつく。前に手短かに触れたように、INTRASTATは、従来のシステムのも

とでは EC 域内からの輸入として扱われていた特定の輸入を、適切に EC 域外からの輸入として処理している。むしろ、(オランダの) ロッテルダム経由で英国に出荷される EC 域外からの輸入に問題があったようである。したがって、誤りがあるのは、1993 年第 1 四半期よりむしろ、1992 年第 4 四半期の統計のほうである。

第 2 四半期の輸入統計は妥当なものに思えるが、EC 域外輸入がふたたび EC 域内輸入よりはるかに堅調なものとなっている第 3 四半期の数字は問題がありそうである。これらの数字はまもなく改訂される可能性があるが、現状のままでは、第 1 四半期の食い違いが果して“ロッテルダム要因”だけで説明のつくものであるのかが怪しくなる。

第 1 および第 2 四半期に EC 域外輸出が EC 域内輸出よりもかなり堅調だった事実は、前述のように、域外市場と域内市場の相対的な景気の善し悪しによって説明できる。しかし、ここでもまた、第 3 四半期の数字がかなり奇妙に思える。EC 域内への輸出が EC 域外への輸出よりも伸びているのである。相対的な景気の善し悪しという面では、こうした変化を説明できるような変化は見られなかった。

輸出に関する価額統計と数量統計の相違も興味深い。1993 年の第 2 および第 3 四半期には、EC 域内へのモノの輸出単位価額はほぼ安定していたようであるが、一方、EC 域外への輸出の単位価額はきわめて不安定だったようで、第 2 四半期には安く、第 3 四半期には高くなっている。

これもまた説明が困難である。その根底にある通貨の動きからは、この変動を十分に説明することはできない。

あいにく、入手可能なデータが不足しているため、より詳細な検討を行うことはできないが、いずれにしても 1993 年全体に関するデータが発表され改訂されるまで待ったほうがいだろう。

とはいえ、どう見ても答えよりむしろ疑問のほ

うが多そうなので、答えが見つからないうちは英国の貿易統計や英国の国民勘定をあまり信用しすぎないほうが賢明だろう。

補遺 1 : 1991 年と 1992 年の国民勘定データ

1991年国民勘定 輸出	第 1 四半期		第 2 四半期		第 3 四半期		第 4 四半期	
当初の発表	-6	-2½	+13	-0	-2½	+3	+1	+2½
1 次改訂	-4½	-2	+15	+½	+1	+3	+½	+2
2 次改訂	-4	-1½	+14½	-0	+2	+3	+0	+2
3 次改訂	-6½	-2½	+14½	-½	+3	+3	+1	+2
4 次改訂	-8	-3	+14	-1	+3	+3	-4	+1½
5 次改訂	-7½	-3	+14½	-1	+5½	+3½	-4	+1½
6 次改訂	-8	-3	+15	-1	+5	+3½	+1	-½
7 次改訂	-8½	-3½	+14½	-1	+4	+1	+1	-½
8 次改訂	-8½	-3½	+16½	-½	+4	+1		
9 次改訂	-19	-4	+16½	-½				
10 次改訂	-19	-4						

(資料: CSO、筆者自身の計算)

1991年国民勘定 輸入	第 1 四半期		第 2 四半期		第 3 四半期		第 4 四半期	
当初の発表	-4½	-4½	+3½	-5	+6	-1	+1	+0
1 次改訂	-8	-5	+3½	-5	+3	-1½	+2	+0
2 次改訂	-8	-5	+6	-5	+3	-1½	+2	+0
3 次改訂	-9	-5½	+5½	-5	+3	-2½	+2½	+0
4 次改訂	-9	-5½	+6	-5	+3	-2	+1	+0
5 次改訂	-10	-5½	+6	-5	+6½	-1½	+1	+0
6 次改訂	-10	-5½	+3	-5½	+6½	-1½	+9	-1½
7 次改訂	-9½	-5½	+3	-5½	+2½	-5½	+9	-1½
8 次改訂	-9½	-5½	-2	-7½	+2½	-5½		
9 次改訂	-14½	-7	-2	-7½				
10 次改訂	-14½	-7						

(資料: CSO、筆者自身の計算)

1992年国民勘定 輸出	第 1 四半期		第 2 四半期		第 3 四半期		第 4 四半期	
当初の発表	-1½	+3½	+6	+2½	-3½	+1	+3	+2
1 次改訂	+1	+4½	+6	+2½	-2½	+0	+4	+3
2 次改訂	+0	+4½	+8	+2	-2½	+1	+4½	+2
3 次改訂	-½	+3½	+9	+3	-3	+1	+4½	+3
4 次改訂	+1½	+4	+7½	+3	-3	+1		
5 次改訂	-1	+5	+7½	+3				
6 次改訂	-1	+5						

(資料: CSO、筆者自身の計算)

1992年国民勘定 輸入	第 1 四半期		第 2 四半期		第 3 四半期		第 4 四半期	
当初の発表	+12	+5½	+9½	+6½	-1	+6½	-4½	+3½
1 次改訂	+12	+5½	+11	+6½	-1	+5	-3	+4½
2 次改訂	+11	+5½	+11	+7	-1½	+5½	+3	+5
3 次改訂	+10	+5	+11½	+7½	-½	+6½	+3	+5
4 次改訂	+11	+5½	+11½	+7½	-½	+6½		
5 次改訂	+6½	+4	+11½	+7½				
6 次改訂	+6½	+4						

(資料: CSO、筆者自身の計算)

補遺2：1993年の月間貿易データの改訂

E C 域内諸国との貿易

n/a: データなし; n/c: 変化なし

発表年月日	1月	2月	3月	93年1 第 四半期	4月	5月	6月	93年2 第 四半期	7月	8月	9月	93年3 第 四半期	10月	11月
輸出(単位: 百万ポンド)														
1993年 6月11日	n/a	n/a	n/a	16200 17300 -1100										
1993年 9月10日	5300 5500 -200	5500 5500 0	5200 5400 -200	16000 16400 -400	4800 5000 -200	5200 5300 -100	5000 5500 -500	15000 15800 -800						
1993年 10月11日	5451 5634 -183	5690 5695 -5	5368 5576 -208	16509 16905 -396	4933 5218 -285	5079 5548 -469	5110 5720 -610	15122 16486 -1364	4859 5707 -848					
1993年 11月12日	5423 5534 -111	5618 5472 146	5425 5441 -16	16466 16447 19	5037 5341 -304	5156 5363 -207	5208 5537 -329	15401 18241 -840	5104 5424 -320	5523 5213 310				
1993年 12月10日	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	5151 5447 -296	5616 5235 381	5462 5544 -82	16229 16226 3		
1993年 1月10日	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	5135 5535 -400	5571 5344 327	5415 5580 -165	16121 16359 -238	5323 5529 -206	
1993年 2月11日	5451 5540 -89	5581 5565 16	5356 5500 -144	16388 16605 -217	5114 5468 -354	5192 5480 -288	5233 5690 -407	15589 16638 -1049	5194 5614 -420	5665 5314 351	5406 5775 -369	16265 16703 -438	5254 5579 -325	5092 5384 -262

[資料: CSO]

E C 域外諸国との貿易

n/a: データなし; n/c: 変化なし

発表年月日	1月	2月	3月	93年 第1 四半期	4月	5月	6月	93年 第2 四半期	7月	8月	9月	93年 第3 四半期	10月	11月	12月	93年 第4 四半期
1993年 2月25日 輸出(単位:百万ポンド) 輸入 収支	4296 5316 -1020															
1993年 3月22日	4345 5405 -1060	4425 5759 -1334														
1993年 4月23日	n/c	4469 5709 -1250	4733 5651 -918	13537 16765 -3228												
1993年 5月24日	4345 5399 -1054	n/c	4702 5631 -929	13506 16799 -3233	4685 5516 -831											
1993年 6月11日	n/a	n/a	n/a	13400 16800 -3400	n/a											
1993年 6月21日	4320 5414 -1094	4434 5724 -1290	4677 5646 -969	13431 16764 -3353	4659 5560 -901	4649 5418 -769										
1993年 7月21日	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	4839 5409 -770	4846 5459 -613	14144 16428 -2264								
1993年 8月20日	4396 5348 -962	4487 5661 -1174	4718 5587 -869	13601 16596 -2955	4659 5493 -834	4642 5414 -772	4842 5441 -599	14143 16348 -2205	4794 5572 -778							
1993年 9月10日	4417 5406 -989	4508 5719 -1211	4739 5845 -906	13664 16770 -3106	4683 5558 -895	4649 5469 -820	4846 5498 -650	14160 16525 -2365	n/a							
1993年 9月22日	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	4795 5493 -698	4873 5443 -570						
1993年 10月11日	4420 5418 -998	4508 5701 -1193	4742 5646 -904	13670 16765 -3095	4683 5549 -866	4648 5405 -758	4648 5468 -620	14160 16422 -2262	4795 5493 -698	n/a						
1993年 10月21日	n/c	n/c	n/c	n/c	4677 5545 -868	4665 5408 -743	4663 5468 -606	14205 16421 -2216	4811 5555 -744	4870 5598 -729	4637 5927 -1090	14518 17081 -2563				
1993年 11月18日	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	4847 5591 -744	4905 5633 -726	4850 5771 -921	14602 18995 -2393	5276 5569 -293			
1993年 12月21日	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	n/c	5182 5564 -372	4810 5577 -767		
1993年 1月28日	n/a	n/a	n/a	13600 16730 -3130	4658 5502 -844	4642 5374 -732	4841 5421 -580	14141 16297 -2156	4826 5582 -754	4864 5620 -736	4614 5751 -937	14526 16953 -2427	5174 5552 -378	4761 5554 -773	5010 5685 -675	14965 16791 -1826
1993年 2月25日																

補遺 3 : 2 種類のモノ貿易データ収集システム

1. 税関申告書

英国と EC 域外諸国間のモノ貿易に使用される。英国からの輸出品または英国への輸入品は通関を必要とする。このプロセスの一環として、書類には、完全な貿易統計を作成するために必要十分な、価額と数量についての質問が含まれている。通関はすべてのモノ（財、商品）に義務づけられているため、そのカバレッジは包括的である。

輸入品は、通関が済まなければ英国に持ち込めない。このシステムはおおかたコンピュータ化されているため、データはきわめてタイムリーであり、貿易統計は、理論上、各暦月の終了後 2、3 日以内に入手可能となる。しかし、輸出申告書は出荷前には義務づけられておらず、一般に、商品が英国を離れてから約 2 週間後に英国税関に届け出られる。月間輸出データは、暦月の終了 3 日前までに英国税関に届いた情報を使用する。したがって、このデータは、ちょうど終わったばかりの月の半ばまでの 1 か月間に港を通過した商品に関するものである。それゆえ、輸出統計と輸入統計は厳密には同一の期間に関するデータではない。

2. INTRASTAT

英国と、EC 域内の他の諸国間のモノの貿易に関して使用される。付加価値税（VAT）のために登録されたすべての貿易業者（1994 年に関して言えば、年間 45000 ポンドを超える取引高を有する貿易業者）は、EC 加盟国からの“着荷”（輸入）と EC 加盟国への“出荷”（輸出）の合計に関するデータを四半期ごとの VAT 申告書に記載して提出することが義務づけられている。年間取引高が 140000 ポンドを超える大規模貿易業者はさらに、目的地の国、原産国、VAT 算定目的の価額、数量等々について詳述した月間申告書を

提出することが義務づけられている。この“補足的”申告書は、申告対象期間終了後 10 営業日が提出期限となっている。電子データ交換技術を用いたデータ伝送が奨励されている。

推定では、貿易業者の 24%がこの詳細な申告書を作成する必要がある、これによって貿易の 97~98%がカバーされることになる。報告される価額は、VAT 算定目的の価額である。貿易統計は伝統的に、輸出に関しては FOB（本船渡し）、輸入に関しては CIF（運賃・保険料込み値段）で価額が算定される。そのため、VAT 価額を調整する必要があるが、この調整はサンプリング技法を通じて行われる。